

今回は、せきレディースクリニック見学会の報告です。

◇ 地域の高校とクリニックが、子宮頸がん啓発キャンペーンに取り組みます！

主催： 岐阜新聞社

趣旨： 県内の若い世代を対象に、子宮頸がんをはじめとした性に関わる諸問題の啓発活動を行う。そのために、今年度より、県内各地の産婦人科病院と高等学校の連携事業を開始する。当日の様子は、高校生向けフリーペーパー「高校ダイアリー」（岐阜新聞社）に掲載予定。

講師： 友影九樹先生（せきレディースクリニック院長）

日時： 2020年8月30日（日） 13:00～14:00

場所： せきレディースクリニック（関市段下28-2）

対象： 医学部医学科志望者9名（2・3年生）

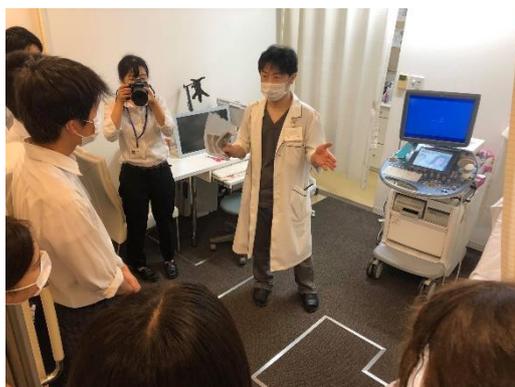
内容： 産婦人科の仕事や出産・婦人科疾病について学ぶ。

◇ 参加した生徒の感想

■診察室や処置室を見学する中で、新たな命の誕生を泣いて喜ぶ人、様々な不安や悩みを抱えてやってくる人がいて、それぞれのドラマがあるというお話をうかがいました。産婦人科と言えば、赤ちゃん誕生の喜びや幸せに溢れるところというイメージが強かったのですが、つらい現実がある側面も知りました。でも先生や助産師さんは「不安をひとりて抱えず、話してほしい」とおっしゃっています。不安を抱えた方にとっては安心できる温かな場所でもあることがわかりました。



■妊婦さんは1リットルの出血にも耐えられると聞き、驚くとともに、女性の強さを感じました。妊娠・出産がどれほど大変で、素晴らしいことなのかを考えさせられました。改めて、自分の母親に感謝したいと思います。



■現在、病院内では感染症対策を徹底するために、見舞客の来院は禁止であり、新生児の父親さえも厳しい制限の中、限られた時間で面会をしているとのことでした。その結果、新生児に多い感染症や皮膚のトラブルなどがほぼなくなったそうです。「ソーシャルディスタンスを含む徹底した感染症対策は、本来、コロナ以前から行うべきだった。コロナの発生により、本来あるべき姿になった」とおっしゃっていました。なるほどなと思うと同時に、このような状況下で、私たちに病院見学の機会を与えてくださったクリニックの先生、スタッフの方々、岐阜新聞社の方々に、心から感謝したいと思います。ありがとうございました。